

【1】フローリングの施工前に

①現場環境について

下記のような環境では、床下の湿度が著しく上昇し、フローリングの膨張による不具合が起こる可能性が高くなります。施工の際には、十分な対策を行って下さい。状況に不安が残る場合には無垢フローリングの使用を再検討下さい。

条件 沼地や田んぼに囲まれた場所などの湿度の高い土壌地域
 海岸、河川沿岸部
 埋め立てを行った土地や地下水(湧き水)の豊富な場所
 床下の換気口の小さい現場や床下と、地面が 30 センチ以下に接近した現場。
 ※建築基準法施工令外壁の床下部に、壁長5以下ごとに長さ 30 平方センチ以上の換気口を設置

②下地の確認

下地に使用する大引き、根太、捨て貼り合板などは全て乾燥剤を使用して下さい。
 大引き 90 mm角以上、根太 45 mm角以上のものを使用し、根本ピッチは 300 mm程度にしてください。(右図参照)

③捨て貼り

厚さ 12 ミリ以上の耐水合板の捨て貼りが必要です。
 湿気が多い場所では根太と合板の間に防水シートを敷き込めば効果的です。
 二重床に施工される場合は、パーティクルボードに直交するように耐水合板を貼って下さい。

④材料納入のタイミング

無垢フローリングは、湿度により伸縮します。
 現場の湿度に馴染ませるために箱から開梱してフローリングをできるだけ広げ、一週間養生後に施工を行うのが理想的です。
 しかし、現場の条件(場所、工期など)によっては不可能な場合も多く、養生せずに床貼りし不具合を起こすケースもあります。
 最低2、3日前には現場への納材を完了させ、どんなに遅くても前日に箱から開梱しその場の湿度に馴染ませてください。

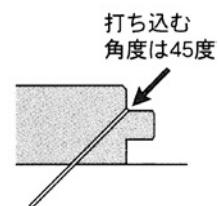
【2】フローリングの施工（張り込み）

①仮並べ

無垢材は色調や木目が均一ではないので、仮並べを行って下さい。他の部分と際立って調和しないピースを目立たない場所へ貼るなどの配慮は仕上がりのイメージを向上させ、同時に端材の有効活用にもつながります。

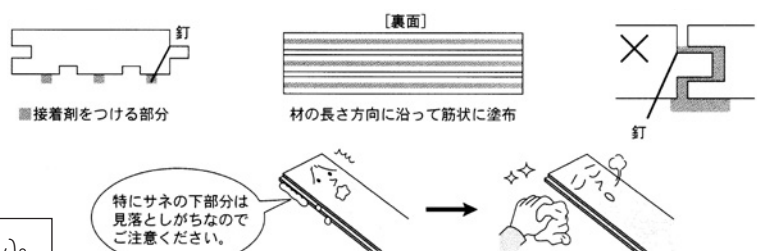
②釘

- 必ず釘と接着剤を併用して下さい(糊釘併用)
- 釘はフロア用ステープル(股釘 コンプレッサー型のフロア釘打機)がよいでしょう。
 フローリングの厚みが15mmの場合、38mm以上のものをご使用ください。
- 雄ザネの付け根から斜め45度に打ち込み、捨て貼りを通して根太に打つのが基本です。
- 固い樹種はサネ部の欠けを防ぐため、舌穴が必要な場合があります。



③接着剤

- 接着材は1液型ウレタン樹脂系の木質床用をご使用ください。(樹小西ポンド KU928Cなど)
 ※木工用ポンドは床鳴りをおこします
- 幅に対し真ん中とオスザネ側・メスザネ側の3列筋状に塗布して下さい。この時、両端の2列は少なめにするのが良いでしょう。



サネには絶対に接着剤が入らないようにして下さい。
 ところどころに大きな隙間ができます。

※もしサネに付着した場合は、必ずきれいにふき取ってから貼ってください。

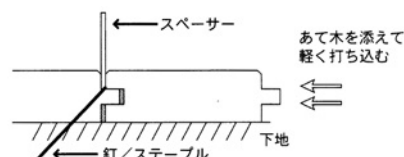
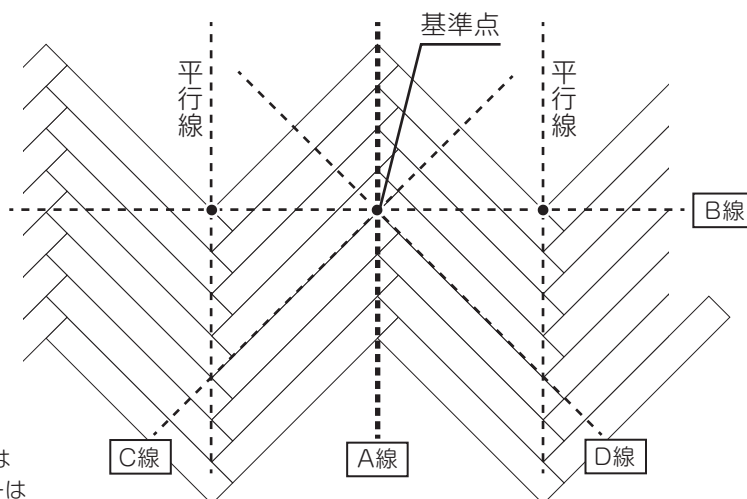
④納まり

- フローリングと壁面は、膨張を考慮し、巾木で隠れる範囲内で5mm以上の隙間をあけて下さい
- 框、敷居の取めも必ず隙間をとり、コーキング処理をしてください
- 掃き出しサッシや浴室サッシとの結合部は結露による水漏れの可能性が高いため、木端、木口に塗料を塗り、しっかり防水処理をしてください。

⑤貼り込み

- 施工する向きを決めて下さい。
- フローリングの割り付けを考えて基準点を定め、基準点を中心に直交する2本の線(A線、B線)を引き、さらにその線から45度の角度で、C線とD線を引いて下さい。
- A線に対してフローリングの長さ合わせたピッチ

$$\text{フローリング長} \div 1.414$$
 で平行線を引いて下さい。
- これらのA、B、C、D線を目安にしながらか商品の各頂点が平行線上で施工されるようにして下さい。
- 商品間にスペーサーを入れて施工して下さい。スペーサーは補助具ですので、隙間が取れているかは目視にて確認ください。接着剤が効くまでスペーサーははさんだ状態にしておいてください。

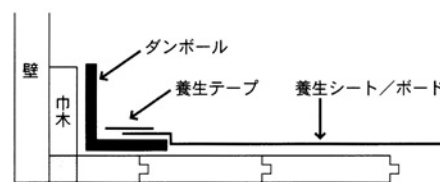


【3】養生

①養生時の注意点

- きれいに掃除し、細かいチリを完全に取り除いてください。
- 表面保護のため養生シートまたはボードにて施工面全面を覆ってください。覆っていない面は日焼けによるムラになります。
- ウレタン塗装仕上げのフローリングには養生テープの使用が可能ですが、粘着力の弱いテープを使用し、少しでも期間が短くなるよう配慮ください。

亜麻仁油・蜜蝋ワックスなどによる仕上げの場合、養生テープの粘着剤がフローリングに浸透し、汚れや変色の原因になります。養生テープがフローリングに直接触れないようにしてください。(下図参照)



【4】お引渡し前に

①天然オイル仕上げのクリーニング

養生シートを取り除き、チリ・ホコリをきれいに掃除し、基本的には乾いた雑巾にて乾拭きを行ってください。 ※水拭き禁止！
 汚れの取れない場合は、仕上げ面をサンドペーパーで補修研磨することも可能です。そのときは研磨部分に再度オイルを塗っていただく必要があります。サンドペーパーで磨いた所は色が変わりますので、磨く時は輪郭がぼやけるように磨いてください。

②ウレタン塗装仕上げのクリーニング

養生シートを取り除き、チリ・ホコリをきれいに掃除し、基本的には乾いた雑巾にて乾拭きを行ってください。汚れの取れない場合は、固く絞った雑巾で拭き取ってください。表面を保護する目的でワックスをかけることも可能です。ワックスは市販の無垢床材に対応された物をお使いいただき、ワックスを撒かずに、雑巾等に染み込ませて塗布してください。

仕上げでコーティング剤(ウレタン樹脂など)のご使用は出来ません。

隙間にコーティング剤が入り込み固まってしまうと、収縮時に大きな隙間が出来たり、フローリングが割れてしまう原因となります。